



対魔忍スケベCG集

ゆきかぜ
と


お母さん



ゆきかぜの母である不知火を
助けた俺達。その夜、ゆきかぜは
俺に股を開いた。

「来て……ふうま……」

私からのお礼受け取ってよね？
母の不知火はなぜかウキウキして
カメラに撮ろうとしている(呆)



「もっっ」 こんな格好
させるなんてえ…♡」
ゆきかぜは恥じらいながらも
俺に股を強調させる。

この格好を命令したのは
俺じゃなくて不知火のほうだ。
「うふふ…殿方は「うう」の
弱いよ？ ゆきかぜ♡」
母親としての指導なのか…

「ああっ……！」

ふうまのオチンポ凄いい♡」

だらしない顔をしながら

よがるゆきかぜだった。

「あらあら、ふうま君の凄く

成長したのね……♡」

不知火はうつとりしながら撮影中だ。

「こんなオチンポじゃすぐ

イクぅ……っ！」

ビクンと身体を弾いて

ゆきかぜは絶頂した。



「あらあら、母親の前で娘に
申出しするなんて酷いわ♡」
くすくす笑いながら不知火が
俺にむき出しのヴァギナを
見せつけてきた。

「ちよっとお…私に
こんなに出しておき
ながらお母さんに欲情
してるわけえ？ まったく
「うふふ…まだまだゆきかぜに
負けない自信あるもの」
やれやれ。お互いオマシコを
強調しながら母娘団らんの
会話するかね…」

「ふふ…ゆきかぜじや」んなコト
できないものね？ いっぱい楽しん
でね、ふうまクン♡」
となりでゆきかぜが抗議しているが
俺達は無視してパイズリに没頭する。

不知火の胸は他よりも
とびきり大きいため
とんでもなく気持ち良い。
「んちゆうう…んん♡」
柔らかい舌が俺のチンポを
包み込んでいく。

男って……っ！ などとゆきかぜの
怒りをよそに不知火の胸と舌は
俺を快樂へ誘っていく。

「私達母娘を救ってくれたお礼だもの。
いっぱい奉仕しないとダメよね♡」

俺は限界まで我慢し一気に
射精した。

「あんっ♡ すっっい…」

こんなのされたら私も
狂っちゃう…♡」



「私にも頂戴な。ゆきかぜを墮とした
そのオチンポを……♡」
不知火は俺にまたがって一気に
根本までヴァギナに突き刺した。

「あっはああ……♡ やっぱり
凄いオチンポね……娼婦してた時
だってこんなオチンポいなかった
もの♡」
不知火はだらし無く腰を上下させて
ピストン活動をしている。

「うわ…お母さんすっごい
乱れてる…私もこんな感じ
だったんだ…」

「あひい…んんっ♡ ゆきかぜ
ったらこんな独り占めする
なんてえズルいわ♡」


不知火は俺達の結合部を
ゆきかぜに見せつけるように
しながら一気にスパートさせる。

「はあイクう…オバサンイクわあ♡
娘を貫いたオチンポでイクうっ♡」



食事はゆきかぜが作ってくれたのだが。
「こ、こんな格好でごはん作るなんて
思ってもみなかったわよ……」

俺が適当に言ったりクエストに
不知火が乗り気になって結果、
ゆきかぜがこんなコトになった訳だ。
「うう……み、見てるだけなんて許さない
んだからね……っ！」
やれやれ。



「もう、バツクは恥ずかしいって
言ってるのに……」
ゆきかぜは甘えた声で俺に言う。
しかし視線は俺のイチモツに
一点集中している。

「ふうまっつてば私を困らせて
楽しんでるんだからあ……
いいから早くキテえ♡」
不知火のいない間に俺を
独占しようとしているのだ。

「ああんっ♡ 大好きな
ふうまオチンポきたあ…♡」
恥ずかしいなんて言いながら
艶めかしい仕草で腰を動かして
俺を誘惑している。まったく…

俺はお仕置きするようにな
激しくピストンしてやる。

「あひいっ！ すいっ！
オマンコ壊れちゃうんっ！
どびゆるるるっ！

「ああんっ、幸せ汁でイクっ♡」



「お風呂の中でやるなんて
不思議な感じね」
背中を流してあげる、と不知火が
言って強引に風呂に入ってきた。
不知火は挑発的な表情で俺を
籠絡にかかると。

風呂の気持ちよさも
相まって俺は自然に
腰を強く動かしてしまう。
「あんっ……そんなに激しく
するとお湯がなくなっちゃ
うでしょ……？」
そう言う不知火の口調は
まるで親のそれだ。



俺達のセックスで風呂の水面が
パチャパチャ音をたてている。
「あっ……あっ……あっ……」
不知火の嬌声が風呂に響いて
さらに二人を燃え上がらせる。

「こ、こんなに甘いセックス
初めてよお……ふうまクン♡」
幸せそうにヨがる不知火に
俺は射精を見舞った。
どびゆるるるる……っ！
「んひいっ……オバサンに容赦
ない申出しイクううううっ♡」


俺と不知火は修行と称して二人きりで道場で裸になっている。

「対魔忍たるものいつでも女をイカせるくらいでないかね♡」
そう言った不知火だったが…

片足を高々と上げて俺を誘惑する不知火はたんに性欲を
持て余してるだけだろう。
「ホラ、あなたのオチンポは
そんなものじゃないでしょ？」
俺は不知火の術で半ば強制的に
犯していく。

「あん……っ 良いわあ……♡ まるで私を孕ませる気満々ね♡」
広い道場で子作りに励む対魔忍なんて
そういないだろう。

「ああっ……子宮口……じあけてえ……
もう出すのね？ 私が大好きな
孕ませ汁だすのねっ！
いいわキテえ……いっぱい出して
オバサンを孕ませてえ……♡」
淫らなニオイを道場に充満させて
二人は果てたのだった。

An anime-style illustration of two young women with large breasts and buttocks. They are shown from the waist down, facing each other in a suggestive pose. The woman on the left has dark hair and is looking towards the woman on the right. The woman on the right has light brown hair and is looking back at the first woman. Both have blushing cheeks and are smiling. The background is dark and indistinct.

最近の俺は、毎晩ゆきかぜと
不知火の母娘と寝ている。
勿論セックスしまくりで…
毎日この二人の相手はさすがの
俺も大変になっている。しかし…
「ほらあ、今夜のいっぱい
オマンコしよ♡」
ゆきかぜは可愛いお尻をフリフリ
しながら誘惑してくる。

「コラゆきかぜ？ 昨日は
あなたばかりだったでしょ。
今夜はお母さんの番じゃない」
不知火も豊満なお尻を俺に
向かってフリフリしてきた。
「ぶーっ！」むくれるゆきかぜを
無視して俺のチンポをせがむ不知火。

二人同時の誘惑に負ける訳には
いかない。俺は二人同時に犯していく。

「ふああんっ…やっぱりふうまチンポ
大好きい…っ♡」

「あひいんっ…オバサンの全ては
ふうまクンのモノよお…っ♡」

母娘で抱き合いながら俺のチンポを
楽しむ二人。ほんと絶倫だ。

「だしてえ…っ！ いっぱい出して

私とお母さんを孕ませてえ♡」

「私達母娘をいっぱい幸せにしてえ♡
二人の望み通りに俺はありったけの
スペルマを申出しする。

「ああんイクイクイクうっ！

お母さんと一緒にイツちやうう♡」

「受精アクメキメてイクうううっ♡」

































